



シリーズ～新約聖書入門～

2017/4/9



光栄

マルコによる福音書15章20～27節

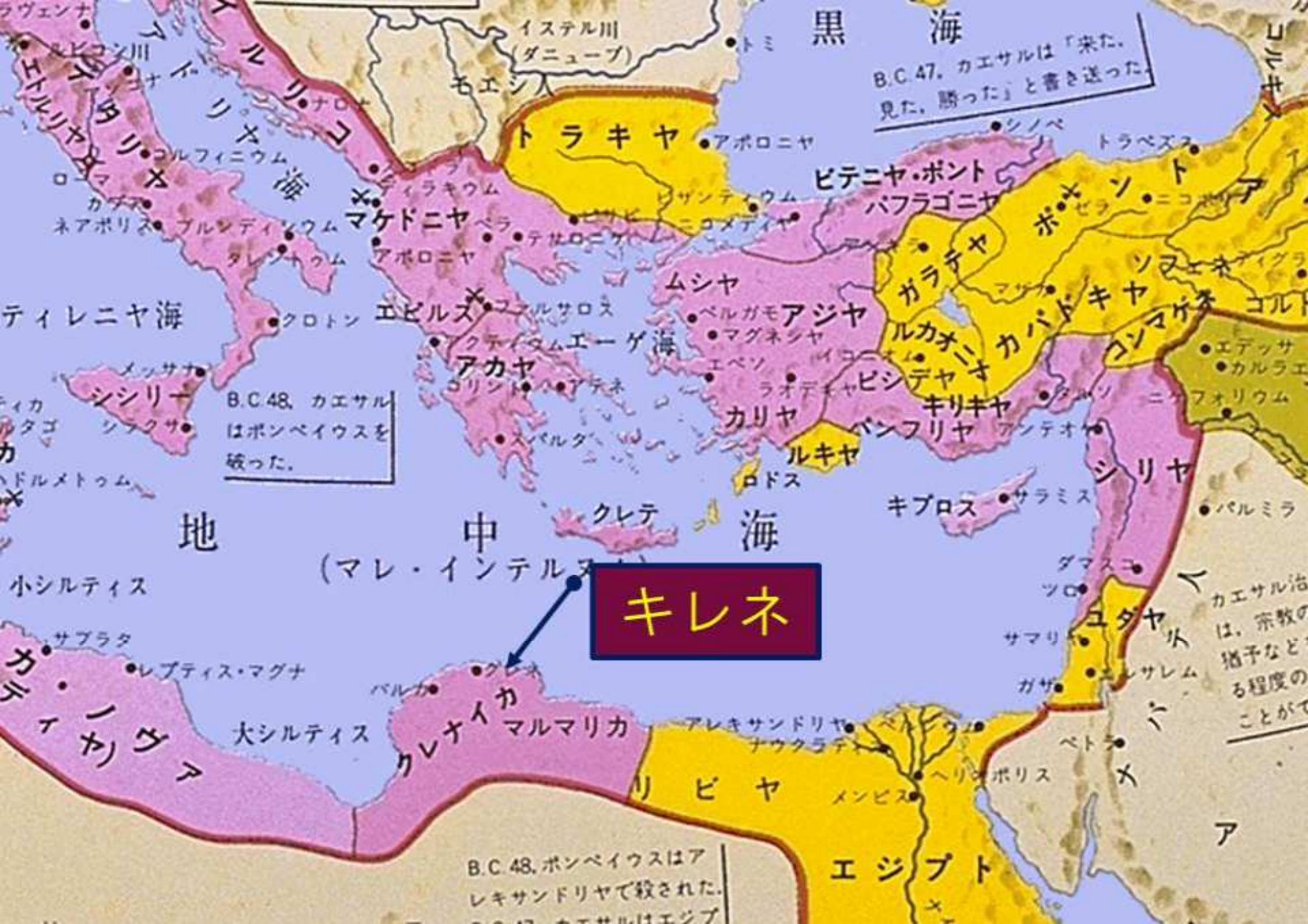
このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。そして、イエスをゴルゴタという所—その意味は「されこうべの場所」—に連れて行った。

マルコによる福音書15章21～27節

没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、その服を分け合った、だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。

無理に担がされた十字架

- イエス様は、ピラトにより十字架刑が宣告され、十字架を担いでゴルゴダに向かった
 - 十字架は受刑者が担ぐことになっていた
 - 鞭打たれ、衰弱しておられたイエス様はよろよろしておられたのではないか
- 「通りかかった」男に十字架を担がせた
 - 「シモン」: どうして名前が残っているのか?
 - ・ しかも2人の息子の名前まで記されている!
 - 「キレネ人」: 今のリビアの地中海沿岸の地域
 - ・ 彼はアフリカ人(黒人)で、体格が良かったのではないか?



B.C. 47. カエサルは「来た、見た、勝った」と書き送った。

B.C. 48. カエサルはポンペイウスを破った。

キレネ

B.C. 48. ポンペイウスはアレキサンドリヤで殺された。

シモンについての記述

- **十字架を担がされる**
 - 「アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人」
- **アンティオキア教会**
 - 「アンティオキアでは、そのの教会にバルナバ、ニゲル(黒)と呼ばれるシメオン、キレネ人のルキオ、…サウロなど、預言する者や教師たちがいた。」使徒13:1
- **ローマ教会へのパウロのあいさつ**
 - 「主に結ばれている選ばれた者ルフォス、およびその母によろしく。彼女はわたしにとっても母なのです。」ローマ16:13

シモンについての記述

■ 十字架を担がされる

シモンも息子たちも教会の一員となった

- 「アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人」

■ アンティオキア教会

シモンは黒人で、教師となった

- 「アンティオキアでは、**その**教会にバルナバ、**ニゲル(黒)**と呼ばれるシメオン、キレネ人のルキオ、…サウロなど、預言する者がいた。」使徒13:1

息子と母はパウロと昵懇でローマにいる

■ ローマ教会へのパウロのあいさつ

- 「主に結ばれている選ばれた者**ルフォス**、および**その母**によろしく。彼女はわたしにとっても母なのです。」ローマ16:13

彼はなぜエルサレムにいたのか？

- クレネには前3世紀頃からユダヤ人が住んでいた
 - ユダヤ人は伝道？していた
- シモンはユダヤ教に改宗した
 - エチオピアの高官(使徒8章)のように
- シモン(おそらく一家)はエルサレムに過越祭を祝うために来ていた
 - 彼(ら)はエルサレムに滞在し、騒ぎを逃れて帰ろうとしていたのかも？

シモンのその後

- エルサレムで弟子の仲間に加わった
 - ペンテコステの日のペトロの説教で信じたか？
- エルサレムでの迫害を逃れ、アンティオキアに移り、異邦人に福音を伝えた
 - 「ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々…、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。」使徒11:19-20
- アンティオキアでパウロやバルナバと共に働き、彼らを送り出した
 - 「そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。」13:3

シモンのその後

■ パウロのサポーター

- パウロは息子のルフォスを「主に結ばれている選ばれた者」と呼び、母を「わたしにとっても母なのです」と言った
- アンティオキアでパウロはシモン一家と共に過ごしたのではないだろうか？

■ パウロより先に

- ルフォスと母はパウロより先にローマに行っている
- マルコ福音書がローマで書かれたとすると、シモン一家はローマにいたのかも知れない

強いられた十字架

- 「兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。」マタイ27:32
- 「人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。」ルカ23:26
- 「そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。」マルコ15:21

強いられた十字架

- 「兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を

無理に

無理に担がされた十字架だっ

- 「人々が出て、十字架を担がされた。」

たが、イエス様は自分の代わりにその十字架にはりつけになって、死んで下さった。その事実を知った時、彼の肩の痛みは「光栄」となった!

- 「そこでシモン

シモンは、十字架を担がされて来て通りかかったのです。兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。」マルコ15:21

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」ルカ9:23



私たちの十字架は、予期せず、しかも無理矢理背負わされたものである。しかし、この十字架を背負ってイエス様に従う時、予期せぬ展開と祝福が待っている！